

■ 暑さに負けてはいられない ■

106年前、初めて日本が五輪に参加したストックホルム大会。前年、マラソンの世界記録を27分も縮めた金栗四三は、競技途中に日射病で意識を失った。近くの農家で介抱され、翌朝目を覚ましたが、棄権の意思が五輪委に伝わっておらず、行方不明扱いになった。

暑さ対策のために、2020年・東京五輪のマラソンはスタート時間を30分早めて午前7時に変更された。また、現在行われている高校野球地方大会では、京都で試合を早朝と夕方・ナイターで実施し、最も気温の高い昼の時間を避ける措置が取られた。選手・審判の健康を留意しての決定としている。

猛暑、酷暑、炎暑…、毎日が暑い。一昨日は24節気の大暑。埼玉・熊谷では41.1℃と、日本の最高気温を5年ぶりに更新した。体温より、5℃近くも高い気温とはどういったものなのか、想像するだけで汗が噴き出す。そこまでではないものの、金沢地区では、もう2週間以上も猛暑日に迫る気温が続いている。さらに、暑さは8月上旬まで続くとの予報だ。

学校は夏休みに入った。でも、校舎内は、補習、明倫祭の準備、部活動に励む生徒でまだまだいっぱいである。うだるような暑さの中、生徒のやる気は保てているか、集中力はどうか、気にかかる。熱中症も心配だ。

夕方、生徒の様子を見るために、校内を歩く。体育館でも廊下でも、部活動の生徒たちが元気に挨拶してくれた。夏休みに入ってからか、表情が明るい。あちこちで弾けるような笑い声もこだまする。仕事が進まないのを暑さのせいにしていた私まで元気になる。どうも心配は杞憂のようだ。

金栗に話を戻せば、五輪委は55年後の記念式典に金栗を招き、粋な演出をする。スタジアムで金栗がテープを切ると、「日本の金栗、いまゴールイン。タイムは54年8カ月6日5時間32分20秒3。これをもって大会の全日程を終了します」とアナウンスが流れた。これに金栗は「長い道のりでした。この間に孫が10人できました」とゴール後のスピーチで返したそう。こうして、五輪史上、最も遅いマラソン記録が生まれた。

安全と健康に留意しながらも、全力の夏休みをと願う。だって、高1の夏休みも、高2の夏休みも、受験生の夏休みだって、たった1度きりなんだ。暑さなんかには負けてはいられない。9月に成長した生徒たちに会えることを楽しみにしよう。できれば、金栗のような微笑ましいエピソードにも。